

平成 29 年度 メディカルサポート部バスケットボール競技班
活動報告

1. メディカルサポート活動

1) 実施大会

下記 4 大会、全試合に参加した。

第 71 回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（県総体）	: 2 日間 32 試合
第 70 回全国高等学校総合体育大会県予選会（インターハイ）	: 3 日間 30 試合
第 48 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会（選抜大会）	: 3 日間 46 試合
第 28 回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会（新人大会）	: 4 日間 60 試合

2) 活動内容

(1) 救護活動

試合中の救護活動として、スタッフがコート脇にて待機し、試合中の傷害に対する応急処置などを行った。また、円滑に救護活動を実施する為の準備として、各会場にて AED や担架の保管場所を確認し、実際に担架を用いて搬送ルートのシミュレーションを行った。

(2) コンディショニング

会場の一角にブースを設営し、試合前後の選手・審判からのテーピング等のコンディショニング依頼に対応した。

3) 参加スタッフ数（表 1）

メインスタッフは延べ 38 名（実数 18 名）、アシスタントスタッフは延べ 47 名（実数 24 名）であった。

4) 対応件数（表 1）

選手の対応件数は男子 32 件、女子 21 件、計 53 件であった。また、審判への対応件数は計 6 件であった。

5) 対応回数（表 1）

選手の対応回数は計 136 回であった。また、審判への対応回数は計 12 回であった。

表 1 メディカルサポート概要（選手のみ）

	日数 (日)	試合数 (試合)	スタッフ数 (名) メイン / アシスタント	対応件数 (件)	対応回数 (回)
県総体	2	32	8 / 8	12	32
インターハイ	3	30	10 / 12	8	19
選抜大会	3	46	7 / 12	10	26

新人大大会	4	60	13 / 15	23	57
計	12	168	38 / 47	53	134

6) 傷害内容と傷害部位（選手のみ）（表 2）

実施大会では、筋痙攣が 27 件、関節構成体損傷が 14 件と多くみられた。特に多いものとしては、下腿部の筋痙攣が 15 件、大腿部の筋痙攣が 11 件、足関節の関節構成体損傷が 9 件であった。また、本年度は脳震盪疑いに対する試合中の対応が 2 件あった。

表 2 実施大会の傷害部位別件数（選手のみ）

	頭部	顔面	胸腹部	腰部	肘関節	手関節	手部	手指	大腿部	膝関節	下腿部	足関節	足部	足趾	その他	計
脳震盪疑い	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
打撲	-	1	1	1	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	8
出血	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	1	5
脱臼	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
筋痙攣	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	15	-	-	1	-	27
筋・腱損傷	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	7
(B)	-	-	-	1	1	1	-	2	-	-	-	9	-	-	-	14
判断不可	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計	2	2	1	4	1	1	1	4	13	2	22	9	1	1	1	65

(B)：関節構成体損傷

7) メディカルサポートの対応内容（選手のみ）（表 3）

県内大会における対応内容の内訳は、テーピング 40 回、ストレッチ 33 回、アイシング 21 回、止血処置 5 回、徒手療法 6 回、傷害確認・対処方法の指導 24 回、その他 5 回であった。

表 3 メディカルサポートの対応内容（選手のみ）

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手療法	(A)	その他	計
県総体	12	2	3	3	1	7	4	32
インターハイ	4	6	3	1	-	5	-	19
選抜大会	6	12	7	-	-	1	-	26
新人大大会	18	13	8	1	5	11	1	57
計（回）	40	33	21	5	6	24	5	134

(A)：傷害確認・対処方法の指導

8) スタッフの内訳

本年度のバスケットボールメディカルサポート登録人数は計 47 名であった。その内大会へのメディカルサポートに参加した人数はメインスタッフが 18 名、アシスタントスタッフが 24 名であった。

また、参加スタッフ中、理学療法士免許以外の有資格者は 11 名であった（日本体育協会公認アスレティックトレーナー：1 名、群馬県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー：10 名）。

2. 教育・指導体制

1) メディカルサポートにおいて

本年度は会場にて空き時間を利用して、メインスタッフからアシスタントに向けて対応に関する指導を試験的に実施した。内容としては、脳震盪疑いの選手への対応フローチャート表の確認や筋痙攣や打撲など対応の多かった症例を用いて病態や対応の注意点などの指導を重視した。これらはアシスタントに対しては救護活動やコンディショニングに関するシミュレーションを通じて準備してもらうことを目的とし、メインスタッフに対しては指導を通じて活動内容について再確認を促すことや経験少ないアシスタントの育成に積極的に関与してもらうことを目的とした。

2) 定期勉強会

前年度より継続し、各大会前に定期勉強会を計 4 回開催した。内容として、テーピングや脳震盪の対応、救急搬送法などスポーツ現場に即した実践的な知識や対応について学んでもらうことを目的とした。また、多数の PT が普段臨床で経験し難いアスレティックリハビリテーションについて学び、体験してもらうことで、受傷⇒メディカルリハビリテーション⇒アスレティックリハビリテーション⇒復帰といった段階的な競技復帰までの流れを把握してもらい、選手対応へ活かしてもらうことも目的とした。

（1）県総体前勉強会

【日時】平成 29 年 5 月 9 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】平成 28 年度バスケメディカル年間報告、バスケメディカルサポート概要、
足関節のテーピング（実技）、懇親会

【受講料】1000 円

【参加人数】計 19 名（※PT：14 名で、その内県総体への参加者 7 名。学生：5 名）

【講師】奥井、江原、小林、金城

（2）インターハイ前勉強会

【日時】平成 29 年 6 月 14 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】総体予選のメディカルサポート報告、サポート現場での救護について（講義、実技）、
過去の対応内容についてフィードバック、懇親会

【受講料】200 円

【参加人数】計 20 名（※PT：15 名で、その内インターハイへの参加者 6 名。学生：5 名）

【講師】奥井、江原、小林、金城

(3) ウインターカップ前勉強会

【日時】平成 29 年 10 月 8 日（日）10 時 00 分～13 時 00 分

【会場】高崎健康福祉大学 5 号館 第 2 体育館

【内容】膝関節（ACL 損傷予防）のテーピング（実技）、脳震盪などの救急対応について、
テーピングを巻いた状態での試合

【受講料】2000 円

【参加人数】16 名（※PT：10 名で、その内ウインターカップへの参加者 2 名。学生：6 名）

【講師】奥井、江原、小林

(4) 新人大大会前勉強会

【日時】平成 30 年 1 月 10 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】昨年度の新人大大会でのメディカルサポート対応について、
アスレティックリハビリテーション実践（ランニング）、懇親会

【受講料】200 円

【参加人数】16 名（※PT：11 名で、その内新人大大会への参加者 10 名。学生：5 名）

【講師】奥井、江原、小林、金城

3. まとめ

平成 29 年度の群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、昨年度より継続して各大会での 3・4 回戦以降のサポート活動を実施した。本年度も 3・4 回戦の時点ではトレーナーが帯同していないチームが多く、またベスト 4 以上のチームでもトレーナーが帯同していないチームが男女ともに存在した。そのため、バスケメディカルサポートとしては試合前の選手のコンディショニングや、試合中に発生した傷害への対応を実施するために、来年度も継続して 3・4 回戦以降の試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。

昨年度から継続した取り組みとして、脳震盪の疑いがある場合はバスケットボール班で作成したフローチャート表や対応シート表を用いて対応した点が挙げられる。本年度は 2 件の脳震盪疑いの対応があり、実際にこれらを使用し対応を行った。傷害発生率自体は少なかったが、脳震盪はセカンドインパクト症候群などの重篤な脳損傷に繋がるリスクがあるため、来年度以降もフローチャート表などを用いることで脳震盪に関するリスク管理をしっかりと行っていきたい。また、本年度より実施した AED などの保管場所確認や搬送ルートの確認作業、対応数の多い症例に関するアシスタントへの指導に関しても継続していきたい。

本年度も定期勉強会を各大会前に全 4 回開催した。勉強会では、対応数の多い足関節へのテーピング実技練習の他に、脳震盪や出血といった試合中に起こりうる傷害についての講義や、担架などを用いた救

急搬送法の実技も実施した。また新人大会前ではアスレティックリハビリテーションの実践として、ランニングを扱った。各大会前にこれらの内容の勉強会を行ったのは、サポート参加者が勉強会を通じて準備を行うという目的があった。各勉強会にて直後の大会スタッフの参加がみられたが、特に第4回目の勉強会では参加者 11 名中 10 名が新人大会へスタッフとしても参加しており、一定の成果は挙げられたのではないかと考える。来年度も同様に大会前に定期勉強会を開催し、新しい知見の紹介や、現場で起こり得る傷害に対する知識・対処方法などについてスタッフ間で情報・技術の共有を図っていききたい。

来年度も今年度同様、県内大会における 3 回戦以降のサポート活動を実施するとともに、各大会前に定期勉強会を開催し、メディカルサポートの更なる充実を図っていく必要があると考える。また、今後も脳震盪に関して定期勉強会やサポート現場などを利用し、スタッフに対して継続して知識や対応方法の周知を図りたいと考える。

群馬スポーツリハビリテーション研究会
メディカルサポート部バスケットボール競技委員会
小林、江原、野中、深津